

大阪学芸では、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、適切に説明責任を果たして保護者の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて、第三者評価を導入することにより、学校評価全体の充実を図っていきたいと考えています。

1 大阪学芸「学校評価の体系」

大阪学芸では、「自己評価」、「学校関係者評価」及び学校運営に関する外部の専門家等による「第三者評価」からなる学校評価を実施します。

(1) 自己評価 「校内評価委員会(校務会)」

大阪学芸は、校長以下、教職員から構成される校内評価委員会(「校務会議」がその任を担う)を組織する。校内評価委員会は、年度当初に「部門別活動計画」を作成し、1年間の教育活動の目標数値を設定し、進捗状況を職員会議で報告し共通認識を図りながら年度末に達成状況を検証します。また、教職員による学校評価にとどまらず、生徒による「授業アンケート」・「学級経営評価アンケート」・「生活環境アンケート」保護者アンケート」「教職員アンケート」を実施し、本校の目標達成状況等を検証することを通して、学校の現状と課題を明らかにし、教育活動その他の学校運営の改善を図ります。

ア、学校評価の実施に当たるアンケート調査は、総務部と教務部が担当します。

イ、生徒による授業評価・学級経営評価については、その結果を教科担任・学級担任にフィードバックします。

ウ、新任教員については、上記評価表をもとに管理職面談を実施していきます。

エ、生活環境調査の結果は、学校評議委員会等にも報告し学校の自己評価にも活かしていきます。

(2) 学校関係者評価 「学校評議委員会」

大阪学芸は、生徒の保護者やその他の学校関係者等により構成される学校関係者評価委員会(「学校評議委員会」がその任を担う)を組織します。

学校関係者評価委員会は、校内評価委員会による自己評価等の結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭が学校の現状と課題について共通理解と相互の連携を深め、学校運営の改善への協力を一層進めることを目的として評価を実施します。

ア、学校評議委員会は、学校の理事および現・元保護者により構成します。

イ、任期は、1年更新とする。

ウ、学校評議委員会は、年2回開催し、上記の学校自己評価を含めた学校の現況について意見交換を行います。

(3) 第三者評価 「学校協議会」

大阪学芸は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による第三者評価者(「学校協議会」がその任を担う。)に調査を依頼する。第三者評価者は、各学校の自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえ、より専門的、客観的立場からの評価を行います。

ア、第三者評価委員会は、理事長・校長・法人事務局・第三者委員により構成します。

必要と認められた時は、教頭及び関係教職員を招集します。

イ、第三者委員の任期は、2年とし更新を認めます。

ウ、第三者委員に対する交通費は支給します。

2 中期学校経営方針等への反映

大阪学芸は、学校評価の結果を踏まえた改善策を策定し、「中期学校経営方針」及び「学校経営計画」に反映するよう努めます。

3 学校評価の結果の公表

大阪学芸は、実施した学校評価の結果及び改善策について、ホームページ等適切な方法を用いて公表します。

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という建学の精神をもとに激動する社会の中で求められる 21 世紀型教育を推進し、座学によって獲得した知識を柔軟に活用する思考力、与えられた情報の中から課題を解決するための要素を読み取り整理し、分析し、その解決法を様々な意見を調整し導き出す能力を持った生徒を育成し、いかなる変化にも対応できる人間を育成していきます。

【生徒像】

「気づく心」「考える力」「チャレンジ精神」を教育の 3 本柱とし、すべての教育活動を通して、次のような生徒を育成します。

- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒
- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21 世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒

2 中期的目標

各部・各学年で「基本的生活習慣の確立と大学進学実績の向上」という重点目標達成を目指して「部門活動計画」(部門目標シート)を作成し、成果目標の数値化を行い、その目標を達成するための具体的な行動計画を立てます。4 月に目標設定、11 月に進捗状況の報告、3 月に目標達成の結果と次年度への課題を校務会議、職員会議で発表し共通認識を図り課題を明確化していきます。

※ 今年度は授業・学級経営等のアンケートは業者を変え、より教員が自己分析しやすいものに改めました。評価は「プラス評価」－「マイナス評価」で「指数」があらわされるものとなっています。したがって昨年度まで 80%以上を A 評価、60%以上を B 評価、40%以上を C 評価、40%以下を D 評価としていましたが、今年度から指数で示すものについては「60 指数以上」A、「30 指数以上」B、「－20 指数以上」C、「－20 指数以下」を D 評価と考えて分析しています。

1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と生徒のニーズに応えられる進路指導をめざします。

(1) 基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的生活習慣」の確立なくしてあり得ないという教育信念から昨年度に引き続き「挨拶のできる生徒」「ルールを守れる生徒」「人の話を聴き自分を変化させることのできる生徒」の育成に努め、自己管理能力(自制心とチャレンジ精神)を高めます。

ア、社会人としては許されない「遅刻」の防止に自ら努める自己管理能力を育成し時間を守ることの大切さを自覚させていきます。

イ、いじめを許さない「学級」「学年」「学校」文化を作り出し、生徒全員が安心して登校し学習できる学級・学校を目指します。

ウ、社会人として巣立つにふさわしい服装・マナーの向上に努め保護者から信頼される教育環境を作り出します。

エ、SNS やメールの使用上のマナーを含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができるように指導します。

(2) 学力向上と進路実現

学力向上の基盤は、生徒の「自己管理能力の確立なくしてあり得ない」という教育信念から昨年度に引き続き、教科学習、講習等を通して自習の時間の使い方を学ばせるとともに 2 年目となる「学芸手帳」(バーチャルタイプ)の利用を促進し生活習慣を見直し時間の使い方の工夫から短期・中期・長期と計画的に学習する習慣を定着させていきます。

保護者・生徒の願いである「4 年制大学進学」という目標を実現できるように進路ガイダンスを行い、希望進路の発見・実現に寄与するため教育課程を編成(選択授業での対応や多様な講習の実施)するとともに「電子黒板」を利用した公開授業を行い授業改善に努めます。

教員の授業力を高めていくため「生徒の授業アンケート」(年 2 回)を基に教職員間の相互授業参観等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善に取り組みます。

ア、授業アンケートを実施し「自己の授業の振り返り」を行わせ改善点の自己点検を行うとともに授業力向上のための相互授業参観を行い「授業に対する信頼度」「学習効果への実感度」等を伸ばし生徒の満足度を高めます。

イ、自ら課題を見つけ能動的に学ぶ習慣作りの一環として漢検・英検・数検などの資格試験受験者を増やしていきます。

ウ、生徒の多様なニーズに応えるために教育課程の編成、多様な講習の機会を設定し進路指導を充実させていきます。

エ、管理自習室・e-learning システム・駿台サテネット教室・校内予備校の活用を通して、自学自習しながら学ぶコツの具現化を図ります。

オ、ICT 教育を推進するために平成 27 年 4 月導入の電子黒板を使った公開授業を実施し、さらなる授業改善策を研究していきます。

(3) 社会に貢献できる資質の育成

21 世紀は「正解のない時代」と言われています。この時代を生き抜いていかなければならない子どもたちにとって必要な資質は、さまざまな価値観を持つ人たちの意見を聞いて、新しい正解を作り出していく協調性・リーダー性・調整力だと言われています。教科の学習だけではなく、学校行事やクラブ活動、ボランティア活動等さまざまな体験学習を準備し生徒に成功体験を積み重ねさせる中でこれらの力を育成していきます。

特に子どもたちの生活の基盤となる「クラス」において互いに助け合う精神の確立が大切だという認識のもとに教育活動を行っていきます。

ア、ボランティア活動やセレッソとのサポーターマッチ、エコ活動、地域清掃活動を通して社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成します。

イ、クラブ活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢(協調性)を育成します。

ウ、体育大会や文化祭等の行事を通して他者への思いやりや自分の意見をわかるように相手に伝える力(コミュニケーション能力)、調整力を育成します。

2 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

公立小中学校と違い「校区という地域」を持たない高校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえます。そのためには子どもたちが担任をはじめ教職員を信頼し、学校生活を充実して過ごしている姿を保護者が感じることができるようにならなければなりません。また、「進学校」として進路指導を充実していくことも欠かせません。成績懇談や保護者集会を充実し、生徒や保護者が知りたい情報発信となるように情報の質を高めていきます。

ア、保護者の学校への信頼度(生徒・保護者へのきめ細かな対応と学校生活の充実)を高めていきます。

イ、学校からの情報発信力を高め、ホームページの閲覧者数を向上させ、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深めます。

ウ、成績懇談や進路ガイダンスを充実し保護者・生徒に質の高い豊富な情報を発信し幅広い選択肢の中から進路を決めていくことのできる環境づくりに努めていきます。

(2) 危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められています。このため、交通機関が遮断されたり、大和川の水位上昇で帰宅困難となった場合の対応を関係機関と連携し構築していきます。

ア、避難訓練(火災時の避難経路と地震時の避難経路の区別)を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備えます。

イ、学校として帰宅難民となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整えていきます。

【自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

〈自己診断の結果と分析〉

1 基本的生活習慣の確立

保護者アンケート「子どもに獲得させたい資質は何か」の上位に「自主自立の姿勢」と「協調性・社会性」が入っています。「コートの上で正しい判断をするためには普通の生活での確かな判断が出来なければならない」という言葉があるように普通の学校生活・登下校・家庭や地域生活で「自分を律する心の育成」が求められます。「正しい」という漢字が「一度、止まる」と書くように瞬時に正しい判断と衝動を抑える自制心の育成こそが本校の生活指導の根幹になればなりません。その成果の表れが「遅刻」「服装」等のルールへの遵守にあると考え指導を重ねてきましたが、いずれも目標数値には達していませんでした。しかし、「生活指導は充実しており、規範意識や自立性の育成に努めているか」という保護者アンケート結果に76%の保護者が肯定回答をしています。この保護者の応援をもとにさらに生活指導の充実を図っていきます。遅刻指導については、高校生ともなれば自分で時間管理が出来なければならず、親に頼ってはいけません。これを機会あるごとに該当生徒やクラス指導で訴え、「遅刻は他人の時間を奪う行為」という意識の定着を図って行きます。いじめ行為は、アンケートでもA評価となっていますが、隠れて行われていることも想定し、アンケート調査・教育相談を行い、クラブにおいても練習終了後、着替えた後のミーティングで生徒の様子を観察するように教職員を指導しています。さらに、生活指導の事例を職員朝礼時に話し、日々注意喚起を教職員にする中で教員の生活指導力の向上にも努めてきました。

一方、学校現場を悩ませている SNS については、本校の生活指導の「処分事例」にあたること、刑法上・民事上の責任についても啓発し、ソーシャル・メディア・ポリシーの確立に向けて取り組んできました。その結果、昨年度に比べ SNS の書き込みによる処分者は大幅に減少しました。次年度は教職員・生徒対象のソーシャルメディアポリシーを確立していきます。

2 学力向上と進路実現

保護者・生徒の願いは、学力の向上にあります。このため、本校では年2回の授業評価を行い、何が生徒からの評価を下げているのかを分析し、その改善に取り組んでいます。学力向上に大きく寄与する「先生の好感度」については、改善すべき点が明確に示されていたため後半の調査では大幅にアップしました。しかし、学力向上実感(この授業を受けて学力があがったと実感できるか)については、改善点が示されているにもかかわらず、自己改善が出来ず、マイナス評価となっている教職員がおり、全体の評価を下げています。保護者アンケートの「学習指導は充実し、学力向上に成果を上げているか」ということに対しても67%しか肯定的意見がないのもこの表れと真摯に受け止め、教科主任を通して指導を促しています。次年度は、優秀な人材採用と相互授業参観による教科指導の改善をさらに図っていきます。ハード面では、次年度中にすべての教室に電子黒板を設置するとともにスタディーサプリ、英語サプリを導入し、自学自習を促し学力向上を図っていきます。

また、進路指導については、十分な力がありながら、3学期の一般入試まで待つことができず、安易に推薦入試を受けて早く進路を決めてしまうという流れが毎年顕著になってきています。このため、進路指導部より一般受験で本当に行きたい大学に行くように指導を繰り返していきます。このため、今年度は「進路だより」発行や1年のうちからの進路指導部長による進路講話などを重ねてきました。この結果が「入試情報や進学指導情報が保護者に伝えられているか」という保護者アンケートで70%以上の肯

【学校協議会からの意見】

1 基本的生活習慣の確立

○ 遅刻は、学校の問題と言うより「保護者・本人」の問題。学校が指導する範疇ではないのではない。遅刻は他人の時間を奪う行為であり、社会に出た時に最も信用を無くす行為だと親にも本人にも訴え続けるしかない。

○ 先生がいないときは、ルールを守ろうとしない生徒が多いことが分かる。教育は「一度言ったら、みんな聞く」ことではなく、「教え続ける」地道な作業なので先生も頑張ってください。

○ 生徒に対して毅然と注意してくれる先生が多い学校だと思う。保護者の願いもここにあると思うので今後も頑張ってください。ただ、高校になると家庭との連絡が中学校ほど密でなくなるので気になることは家庭連絡してあげた方が良くと思います。子どもは「家庭の顔」「地域の顔」「学校の顔」といろんな顔を持っている者ですから「家の中での顔しか知らない親に子供の違う顔」を知らせてあげるのも学校の仕事だと思います。もちろん、今の親は自分は人を非難・批判することは得意だが人に注意されると自分を否定された勘違いし攻撃的になるので学校も大変だと思う。でも、「雨降って地固まる」の例えがあるように保護者との信頼関係を築くため、避けることのできないことなのかも知れません。

○ いじめ事象が少ないことは先生方の指導が行き届いていることだと思います。

○ SNS についての取り扱いは僅々の課題。これらの機器との付き合い方をどう教育していくが大人に求められていると思う。「想像力」ある生徒の育成を期待したい。

○ 「よく見の学校の生徒は、挨拶ができています」と言うと先生方は自分の指導のたまものと勘違いをします。挨拶ができるように育てられた生徒がたくさん集まっているだけです。挨拶は、家庭のしつけの問題。挨拶ができない生徒は家庭のしつけが行われていない生徒のこと。自分が挨拶ができないというのは親に恥をかかせていることだと教えるべきではないか。先生が頑張らなければならないことは違うところにあると思います。

2 学力向上と進路実現

○ 学校教育の中で意外と忘れられているのが先生への「好感度」だと思います。好きな先生の授業は生徒は聞くものです。ただ、高校生となると表面的な好き嫌いからその先生が醸し出す「人格性」「懐の深さ」等も関係してくると思います。先生自身が「姿かたち」「言葉遣い」等を正していくことも大切だと思います。もちろん、授業に対する深い知識も必要なことは言うまでもありません。

私の経験では黒板に字を書くときの筆順なども生徒は良く観察しています。

○ 高校生になったら「授業を聞いていたら分かる」と言うのではだめで、一生懸命聞いていても「分からないところがある」と言うのが高校の授業の姿だと思う。だから「予習や復習などを計画的におこなわなければならない」という自覚が生まれてくる。分からないところを授業の中で作り出す「不親切さ」も必要。分かる授業は中学まで、高校でそれをやると「甘え」がはびこると思いますがどうですか。

○ 電子黒板が設置されたことは素晴らしいと思う。

○ 進路面での意識を高める点が弱いと思う。外部の就職コンサルタントなどの人材を呼んで生徒に関わらせるのもいいのではないかな。

3 社会に貢献できる資質の育成

○ 高校で社会性が養われる機会は、クラスの中での相互扶助、クラブ活動での先輩と後輩の関係だと思う。それをリードするのが担任・顧問ですから機会を

<p>定回答となったのだと判断しています。昨年度は 48%。</p> <p>3 社会に貢献できる資質の育成</p> <p>本校は、すべてのコースで「勉強とクラブ活動の両立」を奨励しています。また、学芸手帳を作成し自学自習の精神のもと自ら「時間管理」と「計画性」を育成する一助としています。今年、大阪マラソンへのボランティア協力も実施でき、子どもたちの心に「奉仕の精神」を醸成できたと考えます。クラブ活動についても今年度末には作法室(和室)を造り、附属中学校生徒の書道・茶道等のクラブを発足しスポーツに偏りがちなクラブの活性化も図ります。行事についてはスポーツ大会、文化祭とともに学年縦割りで行う体育大会を通して学年を超えた一体感を創っていくことができました。</p> <p>4 保護者への情報提供</p> <p>高校は、地域という「校区」を持たないため、学校から保護者への情報発信のあり方が保護者との信頼関係を築く上で非常に重要なものとなります。「授業参観や懇談会等で学校の様子を保護者に知らせているか」という保護者アンケートで 88%の肯定回答となっていることはその機能がよく働いていると判断できます。また、先生の生徒・保護者に対する姿勢(言葉遣い、対応等)も普段保護者と接する機会が少ないために慎重に行わないと誤解を招き学校・担任不信となることも考えられます。「知人や弟妹に本校を紹介してもよいか」というアンケート結果が1年で58指数(60でA評価)と60に達していないことを考えるとさらに学校の取組を保護者に周知していくより良い方法を考える必要があります。また、なぜ、60に達しなかったのかを分析する必要があります。今年度は、ホームページのリニューアルが大幅に遅れ、2学期にずれ込んだことも保護者への発信力が低下した原因と分析できます。「学校は一人一人の生徒を大切にしてくれるか」という結果もB評価にとどまっています。生徒への声掛けや相談活動の工夫も課題だと言えます。</p> <p>5 危機管理体制の確立</p> <p>本校は大和川以南からの通学者が多く、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難となる生徒が3分の1を超えます。このため、4月より各自に教室保管用の避難物資を購入し、その対応を図ることが出来ました。</p>	<p>見て子どもたちが助け合ったり、叱りあったり、ミーティングを自主的にやったりする機会を作り出してあげてほしい。</p> <p>○ ボランティア活動は見ているだけでも実際に参加することが大切。引っ込み思案の子どももいるので先生が背中を押してあげてほしい。</p> <p>○ 体育大会も文化祭も大変良かった。子どもたちの生き生きしたすかだが見られ、いい学校だと思った。</p> <p>4 保護者への情報提供</p> <p>○ 生徒の入学前と入学後の学校イメージが良くなったという生徒アンケートがあまり思わしくない。一部の先生に取組が薄いのではないかと子どもともっと真剣に向き合ってほしい。情熱的な先生が少ないように思う。</p> <p>○ 担任は生徒に対して誠実にかかわっているのは分かるが、誠実なかわりの中には子どものわがまま・勝手を許さない厳しい叱りもあることを忘れないでほしい。</p> <p>○ PTA 保護者集会で進路部長からの講話があるのは大変良い。公立と私立の違いは、情報発信量なかでも進路に関する情報発信をどれだけ、どのようにしているかにかかっていると思う。進路部長の話をホームページにも掲載していくことを進めたい。</p> <p>5 危機管理体制の確立</p> <p>○各教室に災害避難物資を置いたのは大変良いと思う。公立ではなかなか、実施できないと思う。また、避難物資へのいたずらもないことは先生方の指導のたまものと思う。</p> <p>○ 災害は忘れたころにやって来ると言われています。地震への対策を行政とも話し合い進めてほしい。特に「水の確保」は大切。学校の施設に「雨をためる貯蔵庫」の設置の検討も進めたい。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基本的な生活習慣の確立	1 規律ある学校生活の確立	現在の高校生に共通する意識＝自分たちが「面白ければよい」と考え「ノリ」で物事を進めたり、発言したりする傾向に歯止めを掛け相手の立場に立って物事を判断する力を育成することが急務となっています。特にツイッター等の使用方法の間違いから「いじめ事象」に発展しないように「考えて行動する習慣」の確立を目指します。	(1) 基本的な生活習慣確立のため各学年共に「一人あたりの遅刻回数」を1・2年間で年間3回以内、3年5回以内とします。	(1) 一人あたりの遅刻回数は、1年2.7回、2年5.48回、3年7.53回という結果に終わった。ただ、10回以上の遅刻者は生活指導部長注意としたことにより昨年度より減少した。「遅刻は人の時間を奪う行為」という自覚を継続して指導していく必要と保護者の理解も深めていきます。
	(1) 規範意識と自律性の育成 (2) いじめを許さない学校づくり (3) 教員の生活指導力の向上	(1) 遅刻防止週間・服装違反撲滅週間等を定期的実施し、生徒の規範意識向上を図ります。 ○指導カードの発行による啓発 (2) 記名・自宅持ち帰りの「いじめアンケート」を実施し、担任・学年主任・生活指導部・管理職による点検で共通認識を図りいじめを許さない学校づくりに専念します。 ○いじめ対策委員会の実施 (3) 学級の係活動や清掃活動を協力して行う雰囲気を作り真面目な生徒が損をしない、担任に不信感を抱	(2) 「先生がいなくてもほとんどの生徒は服装・持ち物などのルールを守っている」という指数を40以上とします。 (3) 担任は①「生徒の態度や行動が間違っているときはきちんと叱ってくれる」や②「自分のクラスは規律ある雰囲気の中で生徒たちが過ごしている」という指数を60以上とします。 (4) 学級経営において「生徒間のトラブルは少なくクラスメートを大切にす風土がある」という指数を60以上とします。	(2) 1年28、2年22、3年18指数となっています。いずれもC評価であり、この心のゆるみが成績にも反映することを地道に教えていきます。注意されて直す生徒から注意されない生徒の育成を図らなければなりません。 (3) ①1年70、2年60、3年47、全体で59という指数でした。あと一歩で60のところまで来ています。1・2年はA評価となりましたが、3年はB評価となりました。3年も後半となると進路を決めた生徒もクラスの中に多くなり、規律が緩みがちなことがこの数値に表れています。 (4) 1年51、2年55、3年43 全体で50指数となっています。60に達しない原因は一部のクラスに落ち込みがあることです。学年として担任任せにするのではなくチームとして全体をより高いレベルに引き上げる主任のリーダーシップに期待します。

		<p>かない学級づくりを行います。</p> <p>○教室の環境整備</p> <p>(4)学級経営についての研修を実施します。</p> <p>○職員朝礼、職員会議、学年会等での相互点検を図っていきます。</p>	<p>(5)学校生活全般を通じて「この学校には、いじめは少ない」という指数を60以上とします。</p> <p>(6) SNS への不用意な書き込みや人権を侵害する書き込み「0」(ゼロ)を目指す。</p> <p>最後に学級経営・生活指導についての研修を積み重ねていきます。</p>	<p>(5)1年67、2年67、3年53 全体で63指数が出て目標を達している。一方、油断することなく「いじめアンケート」や教職員が子どもの動静を注視するなど気を引き締めていく必要もあります。</p> <p>(6) SNS への不用意な書き込み、ツイッターへの投稿については、「名誉棄損」「侮辱」「肖像権侵害」等の行為になることを機会をとらえて啓発してきたために昨年度に比べ大幅に減少したが、ゼロにはならなかった。外部講師等の講演も続けながらソーシャルメディア・ポリシーを定めていきたい。</p>
2	<p>学力向上と進路実現に向けた取り組み</p> <p>(1)生徒による授業満足度の向上</p> <p>(2)自学自習の態度を養成し意欲的に学習する姿勢を身に着ける。</p> <p>(3)希望進路の発見と実現に寄与する。</p>	<p>授業力評価のアンケートを分析すると授業を受けて「学力向上実感」があると評価された先生は「好感度」においても高い数値をあげています。本校の保護者の願いは、「4年制大学への進学実績」「学力と知力の育成」という結果が保護者アンケートから読み取れます。</p> <p>このためにも教師に望んでいるのは「きめ細かな学習・進路指導」となっています。</p> <p>この保護者の信託に応えるために次のような取組をおこないます。</p> <p>(1) 授業力の向上をめざし、7月実施の1回目の授業評価で「何が評価を下げる原因となっているのか」「どの点を改善すればよいのか」を自己研鑽させます。また、相互授業参観、ベテラン教師による若年教師の指導を充実します。特に新任講師に対しては、授業参観・レポートを作成させ教科会を充実します。</p> <p>また、主任を中心に担任・教科担任がクラスの授業の状態を把握し、問題がある場合はすぐに改善策を打つ体制を整備します。</p> <p>(2)各種検定試験の受験率をアップさせ、学習意欲を喚起します。</p> <p>(3)多様な進路希望に即した学習指導を充実します。</p> <p>(4)ICT 教育環境の整備に向けた研修活動を始めます。</p> <p>○電子黒板とタブレットを使った公開授業の実施。</p>	<p>【学力向上】</p> <p>(1)教員の「好感度指数」を60以上とします。</p> <p>(2)「先生の授業を受けることにより学力や知識の向上を実感できる」という学力向上実感指数を60以上とします。</p> <p>(3)クラスにおいて「授業時間は集中して授業を受ける生徒が多い」という指数を60以上とします。</p> <p>【進路指導】</p> <p>(4)「今の学校は希望進路の発見や実現に役立っている」という指数を40以上とします。</p> <p>(5)「入試や進学に必要な情報が十分に提供されている」という指数を40以上とします。</p> <p>(6)「進学講習が学力の伸長につながった」という指数を60以上とします。</p> <p>(7)「明確な目標がありその実現に向けて前向きに取り組むことができている」という指数を60以上とします。</p> <p>(8)電子黒板を利用した公開授業を5教科で実施します。</p> <p>(9)英検準2級以上の資格保持者25%以上とします。</p> <p>(10)管理自習室等eラーニングの両立アップを図る。</p>	<p>(1)学力向上のためには生徒が「この先生の授業なら受けてみたい」という「好感度」が大切です。7月実施のアンケート結果は56指数、12月は7月の調査で改善項目が示されたこともあり71指数と大幅にアップし目標を達成しました。</p> <p>(2)学力向上実感については7月調査で42、12月調査で43となっています。これは非常に落ち込みのある教員がいることが原因と考えられます。教科会の充実と改善を図る必要があります。</p> <p>(3)1年44、2年41、3年45 全体で44指数(B評価)となった。目標の60までさらに相互授業参観などで改善し、授業の工夫を行っていく必要があります。</p> <p>(4)1年38、2年36、3年31 全体で35指数と言う結果。進学校としては低い数値と岩佐セルを得ない。生徒との会話をさらに増やすことの必要性があります。</p> <p>(5)1年56、2年59、3年56 全体で57で目標指数には達している。しかし、(4)が伸び悩んでいる。その提供された情報を噛み砕いて分からせることが必要と考えます。</p> <p>(5)最も厳しい評価の一つ。1年ー1、2年4、3年ー1とC評価にとどまっています。</p> <p>(7)1年42、2年35、3年49 全体で42となった。まだ、高校生活の中で目標を定められていない生徒がおり、大学中退予備軍とも言える。自分の将来を親にゆだねるのではなく、自分のこととして考えるような指導を続けていくことが大切。受け身の姿勢の脱却を促していきます。</p> <p>(8)2学期に公開授業を実施した。本館の実の設置では全員の先生が使える環境にないため次年度は全校舎に設置を進め環境を整えます。</p> <p>(9)英検準2級以上の有資格者が高1で12%となった。全員受験も次年度は考える必要がある。また、本校の英語教育の在り方そのものを考える組織を創り対応を図ります。</p> <p>(10)自学自習の施設となる管理自習室やサテネット教室の利用は順調に進んだ。次年度はより活用の幅を広げるためにスタディーサプリの導入を検討する。</p>
3	<p>3 社会性の育成</p> <p>(1)助け合う雰囲気あふれるクラスづくり</p> <p>(2)部活動の活性化</p>	<p>学校教育の目的は、教科指導による学力の向上とともに多様な体験活動を通して集団の中で協調性や耐性、社会性を育てることも大切な使命です。本校が「両立」を合言葉にすべてのコースで部活動を可能</p>	<p>(1)①「クラス全体の結束力が強く行事の中で達成感や一体感があると感じることが多い」②「困っているクラスメートがいれば誰に対しても手助けをす</p>	<p>(1)①1年44、2年45、3年24 全体で38指数でB評価となった。②1年51、2年45、3年35 全体で44とB評価にとどまった。①については、クラスが一体感を覚える行事が少ないことも原因。②については学級により落ち込みがあるところにも指数を下げている原因があり、改善を学年として図って</p>

<p>できる資質の育成</p>	<p>(3)ボランティア活動の充実 (4)学校行事の充実</p>	<p>としている理由もここにあります。 (1)クラス経営力を向上させるため学年会での相互点検・改善を進めます。 (2)クラブ活動の成績と普段の学校生活は密接に関係することを指導しクラブと学習の両立を図ります。 (3)ボランティア活動の充実 地域清掃が集う、大阪マラソンボランティア活動への参加、セレッソ大阪とのサポーターティングマッチへの参加を進めます。 (4)生徒の自主性を育てる学校行事を促進します。</p>	<p>る生徒が多い」という指数を60以上とします。 (2)「クラブ活動についても明確な目標があり、その実現に向けて前向きに取り組むことができている」という数値を60以上とする。 (3)「学校はいろんなことを体験させてくれる」「体育大会や文化祭も楽しい」という指数を60以上とします。</p>	<p>いく必要がある。 (2)1年53、2年64、3年51 全体として56の指数が出たが、A評価の60にはあと一歩と言うところ。 (3)1年19、2年42、3年29 全体30というB評価となった。1年が指数が低いのは体育祭や文化祭でまだ中心的立場になれないことが原因か。 なお、ボランティア活動については登録制となっており、最近積極的に参加する生徒も増加している。今年度は地域清掃やセレッソとのサポーターティングマッチだけでなく大阪マラソンにもボランティアとして参加した。</p>
<p>3 信頼される学校づくり</p>	<p>3 保護者との信頼関係の醸成 (1)保護者と信頼関係の構築 (2)進路情報の発信 (3)防災教育への取り組み</p>	<p>高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信(学校生活充実度と進路情報の発信度)が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。また、防災訓練等の安全生活に対する取組も緊急の課題であるという認識しています。 (1)担任のきめ細かな対応 体罰・暴言のないクラス・クラブ経営と教科指導を確立するための職員会議等を通じた啓発活動を進めます。 (2)ホームページのリニューアル スマートホンにも対応したホームページを作り保護者への情報提供を密にして開かれた学校づくりを行っていきます。 (3)授業参観や進路・生活指導についての保護者集会を充実 教員と保護者の距離感を縮め話しやすい環境づくりを行います。 (4) 防災教育の充実 ○避難訓練(火災時と地震時に分けて)の実施と防災備品の整備を行います。</p>	<p>(1)「入学前と入学後の学校のイメージは子どもに聞くと良くなった」という数値を60以上とします。 (2)「知人や将来は子どもに本校を紹介してもよい」という数値を60以上とします。 (3)担任は「生徒に対する言葉遣いや態度は丁寧で適切であると感じることが多い」という数値を60以上とします。 (4)「学校は一人ひとりの生徒を大切にしてくれる」という数値を60以上とします。 (5)学校からの情報発信源となるホームページの閲覧数を22,000/月以上、直帰率を17%以下とします。 (6)進路部長からの保護者対象の進路講話の充実と進路だよりを発行します。 (7)大和川決壊や地震等災害による帰宅困難者対応を行います。</p>	<p>(1)イメージアップ指数は1年34、2年21、3年8 全体22という結果となった。 (2)保護者アンケートの結果は79%の肯定回答となっています。しかし、否定的回答が13%あることも改善対策として受け止めなければなりません。 (3)1年53、2年54、3年46 全体51 指数。概ね丁寧な言葉遣いで態度も適切と評価されている。 (4)1年30、2年35、3年20 全体29 指数となった。A評価まで届いていない。 (5)閲覧数は2月末で21,193回に達しており、目標達成は確実だが、直帰率は17.6%とあと少しだが目標に達しなかった。 (6)生徒配布用の「進路だより」が進路指導部より定期的に発行されたことにより、受験情報が昨年度に比べ3年生だけでなく他学年にも共有されることになった。 (7)2度の避難訓練とともにすべての教室に避難物資を配置したが、それへのいたずらは事前指導の成果もありなかった。</p>
<p>補足</p>	<p>朝食提供事業 本校には遠方から通学する生徒、クラブ活動のために早朝から登校してくる生徒、さまざまな事情で朝食を食べないで登校してくる生徒がいるために今年度より朝の7:15より食堂で一食200円の朝食を食べることができるようにしています。朝食は一日の脳へのエネルギー源となり学習にも大きな影響を与えるものであり、万一、朝食を食べていない場合はいつでも食べることでできる食育環境を作っています。</p>			